

東議員（民主県政会）

令和元年 9 月 26 日

教育長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）これまでの入学者選抜制度の課題について

これまでの高等学校入学者選抜制度において、生徒を送り出し、そして受け入れる学校側が抱えてきた課題をどのように認識し、どのように改善しようとするのか、併せて教育長に伺う。

（答）

本県では、全国に先駆けて「学びの変革」に取り組んでいること、また、入学者選抜制度の改善について、文部科学省から通知が出されたことなどを踏まえ、本県の入学者選抜制度の改善に向けた検討を進めることとしたところでございます。

制度の具体的な見直しを検討していくに当たりましては、「現場主義」の観点から、まずは、学校現場におきまして、実際に入学者選抜に携わっている中学校や高等学校等の校長の意見を、しっかりと聴くことが重要であると考え、アンケートを実施いたしました。

このアンケート結果を見ますと、

- ・ 各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実や、各高等学校の裁量の拡大を図ること、
- ・ 選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を一本化することなどにより、入試期間の短縮を図ること、
- ・ 調査書に記載する情報は、客観的事項のみに整理すること

などが求められており、この結果も踏まえ、改善「素案」を策定したところでございます。

教育委員会といたしましては、「広島県の15歳の生徒にどのような力を付けさせたいか」という観点から、高等学校の特色を生かした入学者選抜の一層の充実や、中学生の主体的な学校選択につながるよう、制度の改善を図ってまいりたいと考えております。